

第5回震災伝承検討会議 概要

日 時：平成29年3月27日（月） 午後6時～午後8時

会 場：石巻市役所4階 庁議室

概 要：

- (1) これまでの「震災伝承検討会議」を振り返りについて
 - ・第1～4回「震災伝承検討会議」で出された意見等について確認した。
- (2) 今後の震災伝承等に関する協議について
 - ・石巻市震災伝承計画（案）について意見を交換した。

会議での主な意見

- ・過去にも地震・津波があったこと、終わりではなく始まりだということを入れられたら、「間違いなく来るもの」に対して警鐘を鳴らしているということが伝わるのかなと思う。
- ・チリ津波も宮城県沖も含め、「繰り返す場所だからこそ」ということを入れたほうが良い。
- ・今後も大地震が起こる可能性が高いことを忘れていたような気がする。いつ何があるかわからないという危機感を入れて、「だから今後のために」と考えていく。
- ・現状と課題の書き込みが足りない。課題を数字で書くことで初めてわかることもある。単に「避難訓練に参加しない」というよりも、「何%」と書くことで「高めなきゃ」となるのでは。
- ・「99%来る」と言われていたのにあれだけたくさんの方が亡くなってしまったということ自体が課題なのに、そのことの記載はなく、3月11日から歴史が始まったかのような書き方になっている。
- ・2011年3月11日までにあった震災伝承の課題も書くべきだ。
- ・これだけ「地震が来る、津波が来る」と言われていた中で、多くのものを失ってしまったという部分から始めなければだめだと思う。
- ・人材育成の部分が薄いような気がする。一生懸命立派な言葉を考えても、伝えていく人がいないと無駄になってしまう。語る人が大切だと言うが、どう育成するかも大切に考えていく必要がある。
- ・「死者・行方不明者3,600人も出したからこうするのだ」というのがあって初めて、すごく力のある計画になるのではないかなと思う。
- ・「最大の被災地である石巻市は」としか書いていないが、「悲しみを背負った石巻だからこそやります」という表現がないから「熱」がないと感じるのではないかなと思った。
- ・もう一步踏み込んで、「想いを伝え」、「行動していく」ということを入れられないか。思いを伝えるだけでなく、石巻市民がきちんと逃げて行動し、命を守れるようにすることが大事。
- ・あの日失われた命、生活、風景が輝くような伝え方をしたい。あの日のこと、あれからのこと、あの日までの様子もきちんと伝えることで、二度とこういうことがないようにしていきたい。
- ・単に住宅被害何戸というよりも、仮設（みなしも含む）が何戸・何世帯、避難所最大箇所数など一般的に想像ができないようなことを表すことで、最大被災地の説明になるのでは。
- ・小さい単位で色んな地域で行われている活動についても保護していくべきだと思う。整備というだけでなく、保護するというのも震災伝承計画に盛り込んでいかないといけない。
- ・伝えることを東日本大震災に限定せず、注目される場所だからこそ、他の災害のことも伝えていかななくてはならないのではないかな。
- ・市の方針として「場のプラットフォーム」という考えはないのか。
- ・石巻は範囲が広くネットワークが特徴的だ。各地のものをきちんとつなぐことが必要と思う。